

## 女子部・男子部

### 学びの共有会「まなこれ」

#### 推進チーム 山本太郎

2021年度より、学業報告会を中止し、年度末に「学びの共有会」を開催している。運営は生徒と教師の協働で行い、年度末に複数日に渡って開催する形をとった。

学びの共有会はしばしば「学業報告会を複数日開催にした」あるいは「探求や共生学の発表機会」と語られるが、これは充分ではなく、むしろ画一的な試験による学習評価に代わって「自己評価(リフレクション)」「相互評価(フィードバック)」を軸に据えようとする試みのひとつである。国内外を問わず、年度末に一年間の学びをセレブレーションしあう機会として共有会を行なう事例はいくつもある。それらを参考に、21年度より、従来2学期に開催されていた学業報告会を中止し、年度末に複数日開催にて実施することとした。またその会の運営自体をプロジェクト型の学びとして、生徒と教員の協働による推進チームを発足した。

#### 【2021年度】<sup>1</sup>

21年度は2022年3月3日～7日に開催した。コロナ禍で公開対象を保護者に限定せざるを得なかった。密を避けるために、キャンパスのポテンシャルを活かして複数会場の回遊型イベントに仕立てることとしたほか、さまざまな感染対策を施して緊張のなかの開催となった。

初年度ならではの混乱は少なからず生じたが、探求・共生学のみならず生徒が一年取り組んできた様々な学びを多様な方法で表現して、それを分かち合うことができた。部活動や合唱なども含めて「学び」としてセレブレーションしあえたことは、「学びとはなにか」という問い直しをする大切なきっかけとなった。

#### 【2022年度】<sup>2</sup>

22年度は2023年3月3日～6日に開催した。前年度の反省をもとに、チケット管理やWEBサイトに優れた既存コンテンツを導入するなどにより、スタッフの労力軽減を目指

した。また来場者の満足度を高めるために、コンセプトや領域ごとに会場を分けたり、プレゼンの時間を会場間でずらすなどの工夫を凝らした。通称は「まなこれ(学びのコレクション)」とした。

またコロナ禍が終息に向かっていたこともあり、念願の一般公開に踏み切り、卒業生・教育関係者・メディアなどさまざまな方と学びを分かち合うことができた。

食につながる学びをした生徒たちによるフードコートやカフェ、試行したインターンやおにぎりアクションなどの取り組みのトークセッション、そして開催日のつい数日前に竣工した旧男子部体操館のこけら落としイベントなど、さまざまな企画が創発され、さらにパワーアップした会となった。

推進チームのメンバー、歴々の「学業報告会」の運営メンバー、成田喜一郎氏、苫野一徳氏にこの場を借りて御礼申し上げます。

入り口から出口に至るまで、教育活動全般に影響する学習評価の改革は教育改革の本丸だが、それゆえに敬遠されがちとも言える。このような具体を積み重ねることで、新社会の実現を掲げる自由学園ならではの「真正な評価」が芽生えていくことを期待する。

<sup>1</sup> 「女子部男子部中高合同学びの共有会」『学園新聞』第728号 2022年4月10日。

<sup>2</sup> 「学びの共有会 探求・共生学の成果発表」『学園新聞』第735号 2023年4月14日。